

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当ホームの理念を職員の目につきやすい所へ掲示し実践に繋がるように努力している。	月一回ユニット会議で話し合い、職員の意思統一を図っている。職員は日々のケアを行う中で理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元保育園の慰問やボランティアの参加、同地域での買い物や散歩など生活の一環として日常的に交流できている。また、小学校行事(田植え・稲刈り)等の参加や見学による交流の機会も得ている。	年一回近くの保育園の園児が訪問したり、近所の人たちがボランティアとして慰問し、踊りや歌を披露している。また、近所小学校で行われる田植えを見に行ったりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、認知症の特性や予防・感染症予防等の説明したり、質問を受けアドバイスをさせて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加されている方の意見や要望を受け経過、報告し合い一つ一つ積み上げていくようにしている。又現在の状況や行事等についても報告し意見をもらうようにしている	運営推進委員会への家族の参加は少ないが、町内会長や民生委員の参加がある。市の高齢者介護課職員も参加し、制度や施設の活動状況をスタッフに代わって説明してもらっている。	行事予定などの話し合いだけにとどまらず、ケアについての話し合いを深めることも大切ではないかと思えます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新や入退去連絡表を持って行く際等に利用者の暮らしぶりやニーズを伝え連携を深めるように努力している。また運営推進会議を通じて、運営状況やサービスの実施内容を報告し、助言・指導を頂いています。	市の高齢者介護課の職員が訪問により、利用者の本音を直接聞いているようである。	市職員とのコミュニケーションがもう少しとれるとよいと思う。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修として身体拘束を取り上げ、理解と防止への取り組みに生かしています。また利用者が外出しそうな様子を察知したらさりげなく声をかけたり一緒についていく等安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。	「身体拘束の排除」を宣言し、市の主催する研修会にも参加している。また、2ヶ月に一度、内部研修を行い、職員全員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会への参加や日常ケアの振り返り、不適切なケアが行われてないかを話し合ったり決まっていってはいけないという確認がなされるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加、責任者から全職員に対し勉強会を実施し理解を深めるようにしている。又対応が必要だと思われる利用者がある場合は随時職員に説明、アドバイスをを行いながら利用者の支援に結びつけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取って丁寧に説明を行い事業所のケアに関する考え方や取り組み、退去を含め事業所の対応範囲についての説明を行っている。契約解除に至る場合も家族、本人と相談し納得が得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な介護相談員の訪問があり入所者の相談やホームでの生活に対する要望等を聞いてくださり職員にその内容を伝え反映させている。又家族面会時に意向や要望等を尋ねるようにし、意見箱の設置も行っている。	半年に一度、市の介護相談員が入居者と面談し、個人的な要望等に対応している。	介護相談員と利用者の相談の結果得られた情報を、サービスの向上につなげることが出来ればさらに良いのではないかと期待している。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な管理者会議やユニット会議では代表者も参加し職員の意見や提案等を出し合い代表者、職員間での意識の疎通、統一を図っている。	ユニット会議には管理者も参加し、職員は活発に発言しているようである。勤務時間の変更など、職員の意見を取り上げることができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ユニット会議・管理者会議に出来る限り出席し、時には職員と共に通常の業務を行い、職員の意見や要望を把握して、働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の案内はその都度全員に伝え参加を促している。また、定期的に内部研修を実施し、ディスカッション等を行い、互いの意見や考えを理解し実践に生かせる様に心掛けている。資格取得には環境を整え積極的に薦めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	津山市介護保険事業者連絡協議会の会議や研修会等に参加して、他の事業者との交流・情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の事前面接は必ず行いご本人の生活に対する意向、要望、生活歴や習慣等を確認させていただき環境が変化しても安心して生活していただけるように職員間で話し合いの場を持ち理解した上で統一したケアができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のプライバシーに配慮し、家族が今抱えているつらさや不安を良く聴き安心感を与えるよう努力し、家族のつながりが継続できるよう応援しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者と支援相談員による面接で得られた情報や思いにそった支援の提供のために、必要に応じて医師や看護師より助言を得る等してより好ましい対応を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の立場に立って親しい信頼関係を築けるように関わり、生活のさまざまな場面で教えてもらったり悩みを聞いてもらったりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と綿密に連絡を取り相談しながら支援して、ご家族に意識を積重ねるようにしている。そして本人と家族の関係を一番大切にするように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら、なじみの方との交流や買い物等に出かけたりしています。	入居者によっては、馴染みの人が訪問してくれたり、家族と一緒に馴染みの店へ買い物に行くこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	昔の歌、唱歌、歌謡曲等懐かしい歌を流し一緒に歌うことができる環境作り、食事のお膳運び、洗濯物の仕分け等できる方が出来ない方へお手伝いができるような環境作りに日々努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族からの相談や近況の話を傾聴させていただき必要に応じ支援させていただきながら等本人、家族との関わりを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の要望や希望に出来るだけ添うように職員はケースバイケースに努めた対応に配慮しその人らしい生活ができるように支援している。また言葉での表現が困難な方については、全体像の把握を怠らない。	自分の意思を表出できない入居者についても、家族から情報を得て把握している。愛煙家の入居者には電子タバコを、愛飲家の入居者にはノンアルコールビールを提供して、少しでも入居者の意向に添うように努めている。全ての職員が連絡ノートを開覧し、入居者の日々の状態などを確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接時にご家族、ご本人、各関係機関より情報収集をさせていただきその内容を職員全員が周知、把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、全身状態の観察、排泄・食事状況の確認を行いその人らしい過ごし方できるように職員は体調管理、日ごろの状態を把握し心地よく生活できるように配慮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの原案は本人・家族・各関係者・スタッフ間から情報収集し担当者会議を開催し皆の意見が反映できるようなケアプラン作成に努めている。モニタリングはご家族からの意見も確認し担当職員が責任を持ち総合的に評価している。	担当者会議には家族にも参加してもらっているが、家族からの特別な要望は少ないのが現状である。医療関係者とも話し合い、介護計画を作成している。	個別に連絡を取り合うなど、家族との平素のコミュニケーションがもう少し必要ではないかと感じました。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1週間に1度ケアプランの目標に対する評価を当日職員で記入し担当者でなくてもケアプランの内容が周知できるようにしている。又できるだけ利用者の言葉を記録に残すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の都合により突然の外出・外泊・訪問等があっても優先して対応し本人や家族の満足感につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防には、消防訓練や心肺蘇生の研修等の協力があり、地元町内会の行事に可能な限り参加させて頂いています。また、地元幼稚園やボランティアの方の慰問等があります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望する医療機関への受診、又納得が得られている往診Drとの連携、職員が判断に困った時に担当Drに相談ができる体制を作り適切な医療を受けられるようにしています。	其々の入居者によって違うが、月に1~2度、かかりつけ医に往診してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医療機関の看護師へ利用者の方に異変・異常があった時には相談、状況報告を適宜に行い異常の早期発見、治療に努めている。又時間外でも相談できる体制を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関のソーシャルワーカーと日頃より連携が取れるような関係作りに努め利用者が入院された際は情報交換や相談がスムーズにできるような体制を作っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の身体的レベル低下の過程で、突然急変する可能性もある事を家族に理解して頂くように話し合い、本人・家族の終末に向けての思いを尊重し、常時医療行為が必要になる時には、時期の見極めに主治医等と相談・連携を図っている。	家族との話し合いを早い段階から行い、医師など医療関係者とも連携して支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを整え日々確認合っている。また、消防署の方に協力して頂き、救命救急の講習会を行う等の急変時の対応を反復訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアル・消防計画を作成し、防火管理者を選出して年2回避難訓練を行っている。また、運営推進会議においてもマニュアル等を紹介して地域の方たちとも協力し合えるよう話し合っています。	年2回避難訓練を行い、職員は消防署員からAEDの取扱い方法を学んでいる。マニュアルを紹介し、近隣の住民に協力をお願いしている。災害時には被災者の受け入れも考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユニット会議や担当者会議において、職員が本人や家族の立場に立ったらどんな気持ちかを考えた言葉・態度を取るようにその都度・カンファレンス等で意識を促している。	居間は其々の入居者が自分で居場所を決めている。居室にいる入居者には引きこもらないよう職員が言葉をかけている。夜間眠れない人は眠くなるまで職員が話し相手になっている。紙パンツの方には交換の必要がないか定期的に確認している。失禁は居室で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに担当者を決め、利用者の方の状況や気持ちの把握に努めると共に、職員は出来るだけ分かり易い話し掛け・好み・心地良い事を把握して、気分よく話したり動くことが出来るように見守っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	10時のお茶の時間にはできるだけ職員も一緒に利用者とお茶を飲みながら利用者との会話を通じ今日一日の過ごし方や昼食・夕食の希望を取り入れる等個々の希望に対応できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容から訪問散髪、本人の希望に添った衣服の選択等、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。またご家族の協力の下、化粧品の購入などをして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方たちと一緒にスーパー等の売出し広告を見ながら、何が食べたいか？等の話をして献立を考え、準備から片付けまで個々の力を発揮して頂いている。検食以外の職員の食事についても、リサーチの一つとして活用している。	入居者に味見してもらって、美味しく食べてもらうよう努めている。食欲がない人の栄養不足は医師と相談の上、栄養飲料などで補ってもらうよう工夫している。	献立を考え、調理に携わる職員には栄養に関する共通の認識をもってもらえば、偏りのない総合的に栄養バランスの摂れた食事を提供できるのではないかと思います。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者が摂取しやすい形状に食事を提供し一日の栄養量、水分量が確保できるように努めている。又必要に応じて主治医に相談しトロミをつけたり塩分控えめにしたり健康維持できるように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前の誤嚥予防体操の実施、毎食後の歯磨き、口腔ケアを行い口腔内に食物残渣物がないように肺炎予防にも努め職員は意識しながら口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導以外にも訴え時にはその都度トイレへ誘導させていただき残存機能を生かしながらケアを提供しながら失敗をできるだけ減らせるように自立に向けた支援を行っている。	必要な介助はするが、出来るだけ自分でトイレに行ってもらおうようにしている。紙おむつの人にもトイレでの排泄を促している。排泄の個人的なパターンを職員が把握して言葉をかけ、トイレへ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事には野菜中心の食事を提供し時々には果物や牛乳、ヨーグルトを取り入れながら食事のバランスが偏らないように気をつけている。又適度な運動ができるようにリハビリ体操や歩行練習、運動器具ができる環境を作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間を決めず入りたい時間の希望を聞き24時間いつでも入る事ができるような環境にしている。又個々の希望にあわせ温度設定やお湯の量を調節させていただいている。	2日に一度入浴しているが、希望に応じて毎日でも入浴可能である。入浴を嫌がる入居者にも巧みな言葉かけで、入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は離床を促し居心地の良い場所の提供、環境を作り活性化に努め昼食後には必要に応じて横になるなどして休息していただいている。又夕食後は個々のペースで自由に過ごしていただき眠くなったらお部屋に誘導し就寝していただく		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者の服薬状況の把握に努め内服については主治医や薬剤師からの説明を受け症状の変化や心配なことがあれば薬剤師や医療機関に直接相談できる体制を作っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の方の力に合わせて、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。季節の行事や作業も利用者の方々と相談しながら計画実行している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望される方とは、一緒に買い物や畑で作業したりしている。天気の良い日には、弁当を作って近隣の公園等に出掛けたりしている。	入居者は天気の良い日には散歩したり、少人数だが、職員と一緒に買い物に行っている。加齢と共に少なくなっているが、敷地内の菜園の仕事なども手伝っている。また、屋内に設置されている固定式自転車と平行棒を用いて、機能回復訓練を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に、好みのお菓子等の嗜好品を職員と一緒にいろいろ見て楽しみ買い物が出来る様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が自由に電話を掛けたり手紙を書くことを促している。また、毎年の年賀状等を家族に出す為の支援を欠かさずしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には、季節の花や季節行事の品や利用者の作品を飾っている。また、トイレの案内表示は分かり易いように工夫して表示している。それぞれの居室には、表札を掛けて間違いのないようにしている。	車椅子で動けるスペースが確保されている。広いウッドデッキがあり、日光浴が楽しめる。ウサギが飼育されていて、入居者に可愛がられている。	消毒剤の臭いが気になったが、施設の衛生管理について、専門家等に相談し、助言を求めてみてはどうか。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの好みの椅子や場所で過ごして頂いている。居間には、マッサージ機やソファ等を配置して、和室には座卓を置き、それぞれ自由に使用して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の生活歴や趣味、楽しみを把握し、ご家族の協力の下、家具や小物を取り入れ、楽しみを生かせる場にするとともに安全・安心に配慮しつつ好みのものを取り入れている。	入居者は職員と一緒に衣類など、居室内の整理をしている。家族の写真や使い慣れた古い家具などを持ち込んでもらって、入居者が居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせて手摺を付けたり、家具の配置を換えるなど配慮している。場合によっては、床をタタミ敷きに替える等もやっている。		